

# 小倉ロータリークラブ 週報

**RIテーマ：“ロータリーは機会の扉を開く”**

RI会 長：ホルガー・クナーク 氏  
(所属：ドイツ、ヘルツォークトゥム・  
ラウエンブルク・メルンRC)

**地区テーマ：“日本のロータリー100 周年**

**「新しいロータリーは機会の扉を開く」 ”**

地区ガバナー：古賀 英次氏(所属：柳川RC)

**クラブテーマ：“OPEN THE DOOR TO CHANCE ”**

会長 松永 浩 / 幹事 豊川 智彰



**表紙写真(テーマ/蓮華寺内の寺子屋跡)**

石の扉の建物は寺子屋の跡と言われていますが、窓が少ない堂内でどんな寺子屋教育がなされていたか、興味津々です。蓮華寺も紅葉の人気スポットです。

【撮影：辰巳 和正 会員／京都にて】

**例会場** リーガロイヤルホテル小倉 TEL 093(531)1121

《報告に関して、敬称略》

**例会日** 毎週金曜日 12:30～13:30

**事務局 e-MAIL** : kokura@2700rid.com

**事務局** 北九州市小倉北区浅野 2-14-2 リーガロイヤルホテル小倉 2F

**TEL** (531) 1727 **FAX** (522) 4333

**クラブ会報委員会** 委員長：宮島 俊司

副委員長：城 健一郎

委 員：篠原 烈、橋爪 政博、中村 学、大川 雅弘、甲木 正子

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

**本日の例会 第3456回**

・ロータリーソング “我等の生業”

・会員卓話

株福岡銀行

北九州営業部 執行役員北九州営業部長

橋爪 政博 氏

## 第3455回 例会 記録

**11月13日(金) 普通例会**

・ロータリーソング “奉仕の理想”

・卓話

北九州市立文学館館長 今川 英子 氏

## 会長の時間

松永 浩 会長

本日は私の北九州自慢をお話しさせていただきます。まずは本日の卓話で今川館長がいらっしゃっていますので杉田久女、橋本多佳子のゆかりの地である「櫓山荘」を紹介させていただきます。現在、櫓山荘は櫓山荘公園として整備されています。この公園は日本の歴史公園100選にも選ばれています。場所は小倉北区中井浜です。車で行けば国道 199 号線を戸畑方面に走らせ西港あたりの左側にあります。櫓山荘は大正 9 年に小倉に住ん

だ実業家 橋本豊次郎が自分で設計した建物です。豊次郎は様々な文化活動に関わり、櫓山荘は多くの文化人が集まる小倉の文化サロンとなりました。当時の俳句界の中心人物であった高濱虚子もこの櫓山荘での俳句の会に出席しました。その会にいた妻橋本多佳子は、寒い日、暖炉に火が入り、落ちた椿を暖炉に投げ入れました。それを見た虚子が即吟しました。「落椿投げて暖炉の火の上に」多佳子とはっさの動作がこんな句になることに感動し、すぐに俳句を習いたいと夫に話したそうです。そして、その会に出席していた小倉の俳人杉田久女に俳句を教えてもらうことになりました。後に、この二人は、俳句の世界において大きな業績を残し、近代女性俳句の源流と評価されています。櫓山荘は既になくなりましたが、整備された櫓山荘公園には久女、多佳子を記念して建てられた句碑があります。句碑には多佳子の句が刻まれています。今にも乳母車が高波にさらわれそうな不安感を表現した一句「乳母車 夏の怒涛に よこむきに」又、久女の句碑は堺町公園内にもあります。「花衣ぬぐや纏はるひもいろいろ」この句は、自分自身をきつく縛っているいろいろな紐を解き、自由にはばたく姿を想像して詠んだといわれています。又、「櫓山荘」は子供たちに郷土愛を育むために企画された、北九州市ふるさとかるたでも紹介されています。「櫓山荘 久女 多佳子の 句碑いだき」です。「櫓山荘」は北九州自慢の歴史文化財産です。以前、私はこの公園で、お昼にお弁当を食べに行くことがありました。

ノスタルジックな雰囲気がとてもリラックスさせて気分転換に良かったです。是非、皆様も一度、行かれてみてください。

## 幹事報告

豊川 幹事

・先週もお伝えしましたが、行事予定に変更があります。12月17日(木)に予定していました年忘れ家族夜間例会は、翌日18日(金)の昼間の普通例会に変更いたします。また、1月8日(金)の新年初例会は、夜間を昼間に変更し、松柏園ホテルにてアルコールなしの懇親会を行います。予定の変更をお願いいたします。

・国際大会のご案内です。今年度は、令和3年6月12日(土)～16日(水)の期間、台北で開催されます。旅行会社よりツアーのご案内が届いておりますので、ご興味のある方は事務局にお声かけください。

## 出席報告

大曾根 委員長

2020年7月1日：59名でスタート

	会員数	出席者数	マークアップ
当日の出席	67名	43名	—
先週の出席	67名	45名	14名

◆ゲスト 1名(卓話者)

◆ビジター 3名

- ・久保山功二 氏 (若松 RC)
- ・掛田 哲寛 氏 (若松 RC)
- ・高尾清一郎 氏 (小倉南 RC)

## ニコニコ献金

児島 副 SAA

9,000 円 : 今年度累計金額 175,000 円

久保山 功二 様、掛田 哲寛 様(若松 RC)

本日は今年度の IM についてご説明に参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

高尾 清一郎 様(小倉南 RC)

困った時は小倉に行こう。本日はよろしくお願いいたします。

八尋 重治 君

業務の都合で早退いたします。

上野 禮一 君

元気に感謝。

甲木 正子 君

①今川先生、本日は卓話をありがとうございます。

②ギラヴァンツ MVP 投票を実施中です。豪華景品も当たりますので皆さまもぜひ投票してください。

## 委員会報告

IM のお知らせ

若松 RC 久保山 IM 実行委員

若松 RC 掛田 IM 実行委員

①若松 RC の古海ガバナー補佐が今期の 7 月から体調を崩し、クラブ訪問などで大変ご迷惑をおかけしました。岩見会員が代わりに皆様のと



ころにクラブ訪問に来たと思います。おかげさまで古海ガバナー補佐も 11 月から例会に出席するようになりまして、本調子ではないですが、回復している状況です。

②IM を 1 月 30 日に予定していましたが、ご存知のようにコロナの感染防止のため、集まるのはやめて冊子を作ることにしました。冊子には 10 クラブのクラブ活動計画書にある中の会長の言葉と、顔写真を入れる予定です。写真は後日お送りください。冊子は 1 月 30 日に発刊予定です。

③今日は卓話のテーマが若松の火野葦平さんということで、没後 60 年ということもありますので卓話も聞かせていただきたいと思います。若松の生家もきれいに残っていますので、若松にお越しの際は、ぜひ見学にいらしてください。

## 卓話

北九州市立文学館 館長

今川 英子 氏

『没後 60 年 火野葦平展

ーレットルはかなしからずやー』に寄せて』



今年は敗戦から 75 年、若松出身の芥川賞作家、火野葦平が自死してから 60 年になります。その節目にちなみ、文学館では、『麦と兵隊』や『花と龍』をはじめ多



くの作品を遺した郷土の作家・火野葦平の生涯と文業を紹介する企画展を、11月21日から開催いたします。

火野葦平は1906(明治39)年、若松で石炭荷役業を営む玉井金五郎の長男として生まれました。本名、玉井勝則。旧制小倉中学(現小倉高等学校)に在学中、夏目漱石の作品に感銘を受け、文学の道に進むことを決心します。この頃書いた「女賊の怨霊」という作品は阿南哲朗が主宰していた文芸誌「揺籃」に掲載され、〈芥川ばりの文章〉と評され、地元の文学青年たちから注目されました。

その後、早稲田第一高等学院、さらに早稲田大学英文科に進みますが、休学し、陸軍の幹部候補生として福岡第24歩兵連隊に志願入営します。この時、父・金五郎は、葦平が家業を継ぐことを期待し、大学に退学届を出していました。コミニズム運動に関心を持っていた葦平は、これを機に若松に戻り玉井組に入ります。友人たちに「文学廃業」を宣言して一時、筆を断ち、「若松港沖仲仕労働組合」を結成、自ら書記長に就任します。金融恐慌後の不景気の時代で、日本共産党への弾圧が強まっていました。洞海湾には大手資本により炭積機が次々と導入され、仲仕の失業が大きな問題になっていました。この頃(1928(昭和3)年から32年、葦平21歳から25歳)のことは、自伝小説『青春の岐路』に詳しく書かれています。昨年末アフガニスタンで銃弾に倒れた中村哲さんは、葦平の妹の子ですが、父親の中村勉とおぼしき人物も登場します。このたび文学館文庫として復刊します。日経新聞の「文学逍遙」欄にも紹介され、青春小説としても、当時の若松を知る上でとても読みやすい小説ですので、是非お手にとっていただければと思います。

労働運動に疑問をもった葦平は、1934(昭和9)年、岩下俊作・劉寒吉らの同人詩誌「とらんしつと」に誘われ、17号に火野葦助の名前で、詩「山上軍艦」を寄せ、文学の道へと戻っていきます。火野葦平のペンネームは同誌20号から使うようになりました。

1937年、日中戦争の勃発に伴い召集された葦平は、自身の壮行会が行われているなか、隣室で小説「糞尿譚」を書きあげて友人に託し、中国戦線へと出征して行きました。この「糞尿譚」が、同人誌「文学会議」に掲載され、第六回芥川賞を受賞します。授賞式は駐屯地杭州にて小林秀雄が派遣され行われました。これをきっかけに陸軍報道部へと転属になり、徐州会戦に従軍して「麦と兵隊」を発表。ベストセラーとなり、続く「土と兵隊」「花と兵隊」を合わせた〈兵隊三部作〉で国民的作家となりました。その後も報道部員として、バタアン作戦、インパール作戦などにも従軍、多くの戦地での記録

を残し、〈兵隊作家〉と呼ばれます。

敗戦。48年5月、「軍国主義に迎合して、その宣伝に協力」したとして公職追放を受けます。50年10月、解除。全国紙での発表が可能となり、毎日新聞に「赤道祭」、読売新聞に、父と母をモデルにした一代記「花と龍」を連載、再び流行作家として文壇に復帰します。

さらにその後は、53年、55年、58年と3度の海外渡航を経験、海外旅行は不自由でしたが、ヨーロッパ、アジア、アメリカの各地を精力的に訪問、旅行記やルポルタージュなど発表しました。また河童が好きで、若松の高塔山にのこる河童伝説を書いた「石と釘」など、河童にまつわる作品や絵を多く描き遺しています。

59年、自身の戦争責任と向き合った小説「革命前後」の連載を開始するその矢先、高血圧により体調を崩します。体調メモを兼ねた日記「ヘルスメモ」には、健康への不安に怯える悲痛な心情が綴られています。連載を終え、刊行直前の60年1月24日、睡眠薬過剰摂取により自死。「ヘルスメモ」には、遺書として、「死にます。芥川龍之介とはちがふかも知れないが、或る漠然とした不安のために。すみません。おゆるし下さい。さやうなら。」と記されていました。その死は心筋梗塞によるものとされ、自死であったことは、葦平十三回忌、ヨシノ夫人の没後に発表されました。

展覧会に足をお運びいただき、戦争に翻弄されながら激動する時代を生き、書いた作家・火野葦平の、作品に滲む人間性に寄り添っていただければ幸いです。



### 米山記念奨学会「特別寄付金」

例会当日寄付者



- ・伊与田 修 ・小島 庸匡
- ・竹中 休義 ・平野由太郎
- ・宮島 俊司

合計	2020～21 年度累計金額
24,000 円	385,000 円

### 次回例会予告

11月27日(金) 普通例会

- ・ロータリーソング “それこそロータリー”
- ・財団関係の卓話

第2700地区ロータリー財団委員会 副委員長

吉行 亮二 氏

『ロータリー財団の役割』



▲従軍手帳

